

令和6年度第5回白井市総合計画審議会

議事概要

日 時：令和7年3月25日（火）午前9時30分から午前11時30分まで

場 所：白井市役所本庁舎2階災害対策室2・3

出席者：【委員】

関谷昇会長、手塚崇子副会長、松浦健治郎委員、松井利一委員、中野七生委員、中村教雄委員、清水達人委員、宇津野嘉彦委員、亀山二三雄委員、山崎新一委員、佐野由加里委員、鈴木理恵委員

【事務局】

板橋企画財政部長、村越企画政策課長、齋藤主査補、多納主査補
傍聴者 1名

1 開会

2 報告

○会長 それでは、次第に沿って議事のほうを説明させていただきたいと思います。

まず報告事項ということで、総合計画基本構想の答申についてということで、まず事務局のほうから報告をお願いします。

○事務局 報告事項について、私のほうからお話しさせていただきます。

今、会長からのお話もありましたが、前回の審議会においては、皆様のほうから基本構想の答申案ということで御審議いただきました。その後、会長一任ということで皆様から同意いただきまして、会長、それから副会長、それから私ども事務局のほうで調整協議しまして、答申案をまとめたところです。答申案につきましては、皆様のほうにその後、照会かけさせていただきまして、まとめ上げたところでございます。

皆様のほうには、本日資料1として答申書をお渡ししているところですが、皆様に御同意いただきましたところでありますが、改めて、ここでまとめ上げましたということの報告ということでさせていただきます。内容については、記載のとおりでございますので、既に確認いただいているところですが、改めて御覧いただければと思います。

以上、簡単ですが、私のほうからの報告となります。

○会長 ありがとうございます。

今、報告にありました、この総合計画基本構想の答申につきましては、本審議会終了後、私と副会長のほうで、市長室にて市長に直接お渡しをするということになっておりますので、改めてここで確認をさせていただきたいと思います。

以上が答申についての報告となりますので、よろしくお願いたします。

3 議題

(1) 前期基本計画骨子について

○会長 議題1について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料に沿って説明

○会長 ありがとうございます。いろいろ資料ありますけれども、基本的には今スライドで映していただいたこれを中心に御覧いただいて、ちょっと拡大したほうがよければ、こっちのA3のほうを御覧いただければと思うのですけれども。基本、このスライドの資料を御覧いただきながら、御質問、御意見等頂戴できればと思います。

今、事務局のほうから、まず前段として、この総合計画の位置づけについて簡単にレクチャーをしていただきました。前回も、今、我々が議論していることが全体の中でどういう位置を占めていて、どれぐらいの財政的な割合の中での話なのかということがイメージしづらいんじゃないかというふうなこともありまして、急きょ事務局のほうにも資料を作成いただいて、今回の説明をしていただいたという経緯でございます。

もしかしたら全体の予算をあれこれできるんじゃないかというふうに思われていた方もいらっしゃるかもしれませんが、基本、とにかく8割方は、ほぼほぼ使い道が決まっちゃっているというものなのです。だから実際ある程度工夫しながら改善を図っていくというのは、2割の部分に限られている。しかも、その2割の部分で、一方が重点施策、今、我々がここで議論しているものです。もう一つが、分野別の計画ということで、それが位置づけられているというふうな形になっています。

ですから、予算規模は先ほど御紹介いただいたとおりですけれども、一応その枠の中で今回のこの重点施策をどういうふうに捉えるか、位置づけるか、今後運用していくかというふうな立てつけになっているということは、改めて御確認いただければと思います。

この後、メインは骨子の部分について御意見頂きたいのですけれども、もしこの前段の部分で、何かもうちょっとここを確認しておきたいというようなことがありましたら御質問いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

はい。

○委員 本当に今日は非常に勉強になったというか、全体の構造であったり、我々の今の議論の立ち位置であったり、現在地が非常によく分かりましたので、せっかくですので一つ追加で、ぜひ御教示いただければと思うのですけれども。

今回、この総合計画は、政策の部分に当たると。この政策はどこから出てきたかということ、恐らくこれまで数か月かけてタウンミーティングをしたり、ワークショップをしたりとかして、あと意識調査もして、住民からボトムアップで出てきた声をすくい上げて、この政策というか方向性が出ていると思うのですけれども。これに基づいての重点施策が行われていて、それは全体の予算の中で、先ほどの分野別施策も残る2割のうちの半分みたいな感じで、予算もそういう図式になっているということだったので。

一方で、4年に1回ぐらい首長の選挙があり、市議会議員も、それぞれ二元代表制の下、それぞれが政策を掲げて、市民の声というか、いわゆる有権者の声を受けて、これはこれで市の方向性とか政策に旗印を上げて、声を上げられていると思うのですけれども。この、それぞれの立ち位置関係みたいなので、どういうふうに整理されて、位置づけられている感じなのですか。

○事務局 今、すごく大事な質問というか、大きな話だったので、私のほうからお答えします。

白井市の場合、全国的にそうなのですけれども、基本構想については、これは議会に議決をいただきます。白井市の場合、比較的珍しいのですけれども、基本計画についても、この後、答申が半年以降ぐらいになるのかな。答申いただければ、その答申を基に多分、今年の12月、議会に出したいと思って。これも議決事項です。つまり、市長が皆さんから意見をもらったものを市長が決定して、それを議会に提案して議決をもらうということなので、結構な重みというか、市の最高の議決機関で決まったもの。だから、そんな簡単に動かさないのですけれども。

仮に、今、御質問があったように市長が代わる、議員構成が代わるということであれば、市長がこれを変えたいということであれば、どの程度変えるかという中身にもよるのだと思うのですけれども、皆さんの意見を聞くなり、市長が独断でやるかどうか分かりませんが、変えて議会にかけて、議決を得ないと変わらないということになるので、相当ハードルが高くなると思います。そういうことなので、絶対変わらないということではないのですけれども、基本的に10年間、ここで決めたものは、そんなに簡単に変わるものではない。政治の話なので、市長が反対派、今の市長と全く考えが逆な人と、議員構成も全く変わらないのに、逆な人が。これ市民の総意ですので、市民の方がそれ選べば、10年後の構成も変わるよねということであれば、それは変わっていくということになります。

お答えになっているかどうか分かりませんが、制度としては、そういうふうになりますので。

以上です。

○委員 ありがとうございます。

○会長 この辺、総合計画をどう位置づけていくのかって、結構実際に違うところがあって。しかも自治法がちょっと前に変わって、総合計画議決に入れるかどうかということもある程度判断できるようにはなっているのです。もちろん今、御紹介いただいたように、基本計画も含めて、議決事項で議会とともにしっかり決定をして運用していくというふうになっていますけれども。

自治体によっては、総合計画がないというところも実はあるのです。例えば千葉県内という、一宮町というのは総合計画がないのです。その代わり、総合戦略という。でも、総合戦略というのは、地方創生関係の法律に基づいた計画なので、全然、自治法上の総合

計画とは違うのですけれども、実際ウェイトとして総合計画にウェイトを置いている自治体と、もっと戦略的にやっていくというので、もっと機動力、議会の議決事項じゃなくてもどんどん戦略的にやっていくのだというところで、少しやり方が多様化しているのが今の実情なのですけれども。白井市については、今、御紹介いただいたとおりの運用がされているというところです。

ほかにはよろしいでしょうか。もし何か分からないところが出てきましたら、随時御発言、御質問いただければと思いますので、一応今こういった総合計画についての前提の中で、今、計画がつけられているということを改めて確認いただいて。その上で、先ほど事務局から説明いただいたのが、この6つの目指すまちというもので。

この一覧、皆さんお手元にあると思いますけれども、これに基づいて今、説明をいただいたところです。右側のこの黒く塗った部分が6つの目指すまちということで、基本構想の中でも明確に位置づけられたところです。これから基本計画を立てていくに当たっては、この六つの柱をベースにしながら、その隣、施策の柱、今日これが目標ということで先ほど事務局のほうから説明いただいたところです。こういった柱がそれぞれ6つの目指すまちにぶら下がるような形で位置づけられると。ですから、この後、ぜひ御意見頂きたいのは、その施策の柱がこれでいいのかどうかという部分と、それから、それぞれ説明の中でこの目標と、成果指標というものの説明をしてもらいました。

例えばこの資料でいうと13ページの終わりのところに、①の6つの目指すまちの一つ目、若い世代が定住したいまちの目標。これは目標です。これを踏まえた上で、その進捗を図っていくに当たっての成果指標というのが、その次のページの上のところに書いてある。若い世代が定住したいまちの目標に対する指標ということで。要するに、この指標に基づいて、この目標がどれくらい果たされているのかどうかということを進捗管理していくと、評価していくというふうになっています。

ですから、皆さんにこの後、御意見頂きたいのは、この6つの柱のそれぞれの施策の柱について、これでいいか、もうちょっとこういった部分が必要じゃないかといったような御意見と、それから成果指標で、もっとこういう指標を組み込んだほうがいいんじゃないかとか、そういった御意見をぜひ頂ければと思います。

この後、事務局のほうでは、来年度にかけて各部署でいろいろな計画事業を持っています。それを洗い出して各課とのやり取り、多分、相当重ねていかれることになっているのですけれども、それを今後も集約しながら基本計画を立てていく。その一つの柱として、今日皆さん御意見頂くところが非常に大きな意味を持ってきますので。この6つの目指すまち、どこからでも構いませんので、ぜひ御意見等頂戴できればと思います。

どうぞ。

○委員 大変理解ができました。前回頂いたこの評価表と、それから、この評価表と読むと、すごいダブっていてよく分からなかったのですけれども、今のお話で理解できました。

ありがとうございます。

それで、今度の施策なのですけれども、例えば施策のところでも、施策の柱のところでもそうなのですが、市民に関わるところのインフラ、例えば誰もが交流し合えるまちの中の、1の中の(2)に、誰もが気軽に移動できる交通環境の形成になっているのですけれども、これは、その上の若い世代が定住したいまちにも非常に重要な要素ですし、白井らしい環境を活かすまちでも重要ですし、産業のところは特に重要でございますし。やっぱりこういうインフラに関わるものは、もう少し別な要素で取り上げたほうがいいんじゃないかなというふうに思いまして、申し上げました。

○会長 その点、事務局のほうから、お願いします。

○事務局 ありがとうございます。こちら6つのまちがあって、それぞれジャンルっぽく分かれていますのですけれども。実際それぞれのまちが相互的に作用する部分というのはあるのかなと思ひまして。今、事業について練っているところなのですけれども、恐らくインフラとかは、交流し支え合えるまちにも寄与しますし、若い世代定住とかにも当然寄与する部分なのかなと思ひておりました。そういった複数のまちに寄与するような事業は、同じ事業を再建するような形をとって、この事業は、こういった複数のまちに寄与しているところを示していければなというふうに考えているところです。

○会長 よろしいでしょうか。それをなかなかどう表現するのかといたら、この基本計画の中ではすごい難しいところではありますけれども。再建するというのを含めて、これはここにも関わる、ここにも関わるというふうな示し方を今後検討していくというふうに思ひますので。

ほかにいかがでしょうか。

はい。

○委員 とても分かりやすく理解できたのですけれども、一つ目のほうの若い世代が定住したいまちのところでは気になったところがありましたので、お話ししたいと思うのですけれども。

子育てと教育のほうはよく分かったのですけれども、1番のライフイベントを安心して迎えられるまちづくりというのと、その二つの施策、これがよく分からなくて。というのも、若い世代が定住したいまちという目標を達成するためには、今、白井市に住まわれている子どもたちが、就職とか結婚とかしても、ずっと白井市に住みたい、そのための施策というのが一つと。あと、白井市に住んでいないけれども、子育てとか教育の支援が充実しているから、白井市に引っ越しして、白井市で子育てしようという人が入るための施策。その二つだと思ひますのですけれども。そういう意味でいうと、2番、3番はよく分かるのですけれども、1番がよく分からなくて。

例えば、若い世代に向けた住環境の整備って、何をするのかというのがよく分からなかったりとか。あと、ライフイベントを安心して迎えるための支援。これ何のことを言っ

いるのかというのがよく分からなかったのですが、この辺り、何か具体的なイメージがあれば教えていただくことできませんか。

○事務局 ありがとうございます。今、事業策定中と申し上げましたけれども、ある程度地区別ワークショップとかも済んでいますし、あと、職員の今後10年後にも活躍している職員というのを条件に、全庁の職員を集めてワークショップというものもやっております、その中で、そういった事業アイデアというのは今、整理しているような段階なので、ある程度この施策の中身についてもお答えできる状況ですので、今みたいな御質問があれば、していただければというところで、御質問の回答に戻りますけれども。

まずおっしゃるとおり、今、既存で住んでいる方の定住するための施策というものと、あと白井に来てもらうというのと、あと白井にいた人が、外出ていった人が戻ってきてもらうという、そういった施策というものも重要になってくるかと思えます。

一番最初の施策の柱のライフイベントを安心して迎えらるるまちの中に、施策として住環境整備というものがございます。こちらにつきましては、白井市の現状として今、人口減少傾向ですけれども、人口の減少の内訳を見ますと、自然動態といいますか、寿命になって亡くなる方と社会動態として転入転出での増減、そういった二つの要素のうち、実は転入転出のところで見ると、白井市は世帯も増えていて、住民も微増ですけれども増加傾向にあって、自然減少という部分が要因としてあります。ただ、微増なのです。

それがなぜかというところなのですけれども、千葉県の方に、新設住宅の着工数というものが千葉県の統計データに出ているのですけれども、その表を見てもらうと、白井市だけぽかんと数値が低くて、別の色になっていて、ほかの近隣の市町村に比べて、明らかに新しい住宅が少ないといった部分がございます。そのメリットとして、白井市は空き家の数がほかの市町村に比べてかなり少ないほうなのですけれども。

なので、若い世代に来てもらう移住施策として、まずは住居が必要になってくるという部分がありますので、住環境の整備というのは、新築、若い世代が住みたいと思えるような住居を増やす。そういった部分の事業の想定をしております。

また、もう1個のライフイベントを安心して迎えらるるための支援。こちらはどっちかという定住組に寄っております。まず、今、少子化という社会問題があるのですが、その原因が未婚率の高さという部分が根本にございます。なので、そういった部分に少しでも寄与をしたいというところから、ライフイベントをスムーズに迎えるために、まず知る機会が重要ということで、ライフデザインといいますか、そういった部分の啓発ですとか、また、婚活、そういった結婚支援、そういった部分について今、事業を調整しているようなところとなっております。

以上です。

○委員 ありがとうございます。1番目の住宅が少ないからという話と、さっきの白井らしい環境を活かすまちの1番の魅力的な住環境が充実まちづくりの(1)のニュータウン

の再生に向けた住環境の整備。これも重複しているような気もしたのですけれども、これは、若い人たち向けには新しい住宅を造って、ニュータウンの再生というのは、これは再生だから新しく造るんじゃないかと、古いニュータウンをリニューアルしていくと。それ両方やるってことですか。

○事務局 イメージとしては、両方やるといったところに近いかと思えます。

ただ、時間がかかる部分であると思えますので、まず入り口として、駅の周辺とか、そういった部分から徐々に広げていくような形になるので。老朽化は、ニュータウンでは一遍に進んでおりますので、そういった部分にこれから着手していかないと、再生が間に合わないという部分があるので。事業として、かぶる部分はあるのですけれども、主目的が違う部分もあるので、取組が若干異なる部分というのにも出てくるのかなと考えているところです。

○委員 ありがとうございます。多分この辺りは、それぞれ別々というよりは、エリア全体のマネジメントを考えるという意味合いでは、例えば高齢者がずっと一戸建てに住んでいるのだけれども、子供たちが自立してしまって広がってしまった。例えば駅前のマンションみたいなところに引っ越していただいて、その一戸建て住宅を若いファミリー層が住むとか。そこを循環していくような話を考えていかないと、ばらばらで施策をやっていると、多分ばらばらな感じになっちゃうと思うのです。その辺りは、もう少しトータルで考えていかないとまずいような、私、その辺り専門なので、ちょっと気になりました。

○会長 まさに今の御指摘、全くそのとおりで思うのですけれども、もう一つ、ライフイベントって分かりづらいような気がします。何をここに入れ込んでいくのかということにもよりますけれども。

そもそもこれまでの議論の中でいうと、このライフステージの連続性、そこをどういうふうに捉えていくのか。例えば就学、就職、結婚、出産、子育てというふうになってはいるわけですけれども、このつながりをどういうふうに捉えていくのかということもありますし。

地方創生の総合戦略、県内のあちこち拝見しましたけれども、例えば若い世代に重点を置く政策というのは、いっぱい乗っかっているのだけれども、結局、個々ばらばらなのです。そこら辺がなかなかうまくつながっていかない。例えば若い世代が移り住むということを考えれば、子育て環境がいいということだけでもって多分、選ばないですよ。むしろそこに住んだら、じゃあどういう仕事も合わせてできるようになっていくのか、どういう住環境があるのかという、そういうもろもろのものを考えて、トータルな人生設計ということを考えていくわけですよ。だから部分的なところだけ切り取って、うちは子育てに力を入れているんだ、若い世代を集めるんだと言っても、多分なかなか成果につながっていかないというところもありますから。そういう子育て世帯なり、若い世代が、トータルな今後のイメージを膨らませられるような魅力というものを示さないと、なかなか選んでも

らえないというところがありますから、そこはどう見せるかという話にも関わってくるのかなというふうに思いますので。

そうすると、若い世代の話だけじゃなくて、新しい産業の話とか、どういう新たな働き方ができるのかとか、いろいろな話でもつながってきますから。そこら辺、なかなかこの6つの目指すまちの体験性の中で示せるかどうかというのは、難しいところはあるかもしれませんが。実際問題そういう若い世代が移り住む、あるいは、ここに住み続けるということを考えたときのイメージが湧くような、そして、そういうトータルのイメージの中で、白井は切れ目のない支援というものを考えているのだ、あるいは、ここに重点を置いているのだという示し方ができるかどうかということがすごく大事なので、そこら辺もちょっと今後、念頭において詰めていただけたらなというふうに思いました。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 多分、次回のテーマの中に各施策の目標値と効率的な、効果的な進め方の中身ということがあると思うのですけれども、そのときの議論でもよろしいのですけれども。

前回の第5次のときの事業評価表というのを頂いて見ておりましたら、割合と目標値が具体的な数値としてつかめないもの、例えば住民意識調査とか参加率とかというようなもので評価をして、割合と100%に近い各課の実績が載っていましたけれども。できれば目標値というのは、数値化をする、それはできるだけ客観的なデータで取れるというようなものを選んでいったほうがいいのではないかとというふうに思いました。

それでそのときに、3%よくなる目標値にするのか、30%よくなる目標値するのかでは、施策が変わってくるんです。これは、有名な松下幸之助が、コストダウンは3割しろというふうに指示したと有名な話がありますがけれども、それと同じように、3%は今までの延長線上でも、努力すればいけるわけですよ。だけど、30%コストダウンしろといたら、新しいことを考えない限り、実現できないということ。できれば、そういう方向の目標値をあえてぶつけるというようなことが必要なのではないかとというふうに考えています。

それから、今、会長がおっしゃっていたのは、進め方ですけれども、今までの事業の分野別と、それから重点戦略の進め方というのは、それを一番近い課が受けているわけですよ。課の仕事として、例えばインフラ整備だと、都市計画課とかそういうところが受けてやっていると。そうすると、課の中の業務としてなっていっちゃうんじゃないかと思えます。

私は、効果的に進めるためには、課から、一番上の若い世代が定住したいまちを目指すのだというプロジェクトを、関係する課がより集まって議論するというか、プロジェクトを立ち上げて進めるという方策がいいのではないかとというふうに。この事業評価表を見ていて、重複していることをあっちでもこっちでもやっているんだなど、各課ごとに。という印象でしたので、できれば、そういう方向を、行政としての今までやり方を変えなきゃ

いけないプロジェクトですけれども、最近、そういう地方行政のニュースもいろいろなもので見えるようになりましたので、そういう方向を検討していただけたら、より効果的にいくんじゃないかなというふうに考えました。

以上です。

○事務局 ありがとうございます。事務局としても、おっしゃるとおりと思っております、こちらは体系とか事業を考える中で、実際、組織の編成とかは総務のほうでやっているのですけれども、そういったところとも連携して、いかにやりやすくするか、また課の分野連携というのを今回掲げていますけれども、そういった課という縦割りではなくて、連携する体制として、この事業はこの課によろしくとかじゃなくて、課を連名にしてやるとか、プロジェクトチームを立ち上げてやるとか、いろいろな方法があるのかなと思っております、そこについては、よりベストなやり方というものは模索していきたいと考えているところです。

○事務局 少しだけ補足させていただきます。今の連携して取り組むということの話なのですけれども、まずプロジェクトチームということは、ものによっては設置できるような体制は整えてあります。

もう一つ、それぞれ事業の評価をするに当たって、今の施策レベルの中で、関係する課、いわゆるこれでいうと、まちという部分、まちに関係する課、事業を持っている課が集まって、それぞれの評価に対して、こういうことをやったら一緒にできるよねとか、こういうことを改善したらいいんじゃないのかというような施策内の、年に1回、必ずやるんですけれども、そういうことは行っていますので。その中で新たに生まれるものというのは、過去にもあったと記憶しておりますので、それは、もう少し、より深めていきたいなとは思っています。

以上です。

○会長 今、評価の話が出ましたけれども、従来の評価というと、事業評価なのです。だから個々の評価の、その事業がどうなって、どうやったのかというふうな形で。それをもっとアウトプットじゃなくてアウトカムという、アウトカムというのは、その事業をやったことによって、何が変わったのかという次元で評価をしていかなきゃいけないって流れにどんどんなっていますから、そういう意味では、事業だけを評価していたのじゃ、なかなか改善されていかない。

今、御指摘いただいたように、各事業じゃなくて施策を評価していく。施策を評価すると、いろいろな分野横断的な視点からの評価ということがある程度できるようになって。いきなり形にはできないにしても、少し横断的なものの見方、考え方というものが出てくる可能性があり得るということで。そういう意味での、さっきのPDCAというものを充実させていくという話につながっているのかなと思いますので。その点、今後また議論を続けていただけたらと思います。

○委員 先ほどから、この6つの目指すまちに、いろいろな施策の柱や施策が共通する部分がたくさんあるんじゃないかとお話が出ていると思うのですけれども。この資料2って、横系列ですごく見やすいのですけれども、だからこそ、縦系列見たくなくなってしまって、先ほどから出ている担当課、ここはこれが担当課みたいなふうに縦割りになっちゃっていると思うのですけれども。もしよければ、お手間なのですけれども、その施策の内容と、目指すまちで関連しているものを丸かなんかで関係がわかるように。そうすると、その目指すまちの内容と施策が、これだけの内容が関連しているとか、ここにもこれが使えるとかというふうになると、おのずと担当課だけじゃなくて、いろいろ関係して施策をつくっていかなきゃいけないんじゃないかなというのが図式化されるんじゃないかなというふうに思うのですけれども、いかがでしょうか。

以上です。

○事務局 おっしゃるとおり、どこがどう関係しているという部分をこの体系図に落とし込んだほうが良いという話だと思うのですけれども。一応、今、第5次総合計画でいうところの62ページに、分野との関係という、その関連性みたいな部分を示したものが1個ありまして。こういったものを別で用意するのか、この体系図に落とし込めたら落とし込むのかは分からないのですけれども、頂いた御意見を参考に模索してみたいと思います。

○委員 お手数ですが、できればしていただくと、関連性が可視化されていいかなと思うので、よろしく願います。ありがとうございます。

○会長 どうぞ。

○委員 まず1番なのですけれども、委員がおっしゃったように、御提案、まさにそのとおりなのです。うちも部屋が広くて、子供たちが今、出ていますから、1階で、なおかつ狭い部屋が欲しいなみたいな。委員もおっしゃったように、ここの位置づけ、選挙というところをちょっと踏まえて。

1番についてですけれども、若い世代が定住したいというので、これ、ずっと白井市に住んでほしいと捉えてしまうのですが、私が間違っているのかな。これ、就学、ここは小学校ですか、これ高校なのですか。ちょっと分からないのですけれども。高校、他県に行きますよね。あります。大学ももちろんありますよね。

実は、イベントとしては、成人式というので1回白井市に集まるのです、イベントとしては、ライフイベントで。結婚されて、子育て親元でしてほしいなみたいなことで帰って来るというイメージが、私の中のイメージなのです。ハッピーな感じで、近くにおじいちゃん、おばあちゃんがいて、子育てをお手伝いしてもらえないみたいなイメージなので。このところが僕の理解力が悪いのですかね、就学という。ここのライフイベントは、ちょっと分かりにくいなと思う。

それと、5番なのですが、新しい産業は栄えるまちなのですが、先ほど委員の皆さんおっしゃったように、約18%、要する全予算の8割は、優先的に使わなきゃいけない予算、

市の。約18%でしたっけ。ということなのですけれども、それ財政の収入のところ、先ほどありましたけれども、市役所のところのデータセンターの固定資産税が入るところがあったのですが、どのぐらいの税収入が固定資産税で上がるのかなと。

実は、データセンターで反対されているところがあるので、それは委員がおっしゃったように、全収入がこのぐらい入りますよということをもっと発信してもらわないと、反対側の意見に持っていかれちゃうのかなというところなんです。

おっしゃるように、あと、ごみ焼却場と市民ホールです。実は仕事で、私もごみ焼却の仕事とか、メーカーさんと一緒にやったことはあるのです。ホールも今はやっているのですけれども。そういう支出に対して、結論は、今、提案いただいたのは微増ですよと認識しているのですが、財政は将来的に増えますよというようなことだったのですが。そのデータセンター1個で財政が賄えますと私は聞いてしまったのですが、この5番の新しい産業のところの取組、これで税収入は上がるのかなというところなのですけれども。

今の質問の趣旨は、こういうふうに皆さんが意見集約して答申を上げるのですが、結局財政がなければ、18%のものが全部とはいわずにカットされてしまうということで、財政が大事かなと。

なおかつ、これ言うと、またあれなのですけれども、白井市のイメージダウンの一つとして、北総線の鉄道が運賃が高いという、いまだに御意見あるのですけれども。どうもイメージダウンしてしまうので、便利だよというのは発信してほしいなと。北総線、意外と便利だよというか、北総線、高いと感じない住民が入ってくるのがいいのかなと個人的には思っています。だから会長が最初おっしゃられたように、流山の事例が出ましたよね。あれは極端な御意見だと思うのですけれども、白井市はどうするのという、どういうまちづくりにするのという一つのテーマで、北総線高いと感じない住民、高所得者。これ言うと、またあれなのですけれども。

子供たちが今、自分の話をすると、広島に行っている子は、何と3年目なのにグリーン車で帰ってくるのです。私、30年、40年仕事していますけれども、グリーン車に乗って広島からというか、地方から帰ってきたことはないのですよ。また、前段言ったように、来年の新卒者が相当優遇されています、うちの娘たちも。そういう意味では、白井市に帰ってくるというようなPRというか、市のイメージアップも大事なのかなという。財政の件とイメージについて御意見を言わせていただきました。ありがとうございました。

○事務局 データセンターの話がよく出ていて、いくら入ってくるかというのは、うちのほうではしっかりと試算はできていないです。何となくこれぐらいかなという皮算用は当然しているのですけれども、ここを公にするようなデータがないのですけれども。

あとそれと、じゃあ見込みどうなのだと。今年の予算は相当厳しく。白井市が財政状況がいいのか悪いのかという、決して悪くないので、安心していただきたいと思います。破綻をすることとか、そういうことはないです。それはなぜかという、予算を組むときに相

当厳しく予算編成をしているから。結局、皆さんの御家庭でも同じだと思うのですが、財布を持っている人が支出を締めれば、家庭が破綻することはないのでしょけれども、それをどんどん浪費すれば、いずれは破綻しちゃうことだって。財政でも、白井市でも一緒なので、予算を組むとき厳しくやっていますので、いろいろな御批判を受けるときもあるのですが、そこは財政がしっかり財布を締めていく、見込みを見ながら。なので、ここ何年かで破綻するということはないので、御安心いただきたいと思えますけれども。

じゃあ、データセンターが入ってくれば、税収が入ってくるかと思えますけれども。ちょっと財政上の話をすると、税収が増えると、地方交付税が減額されるというジレンマがあって。一方、入ると、一方、国からの交付金が減ってくるというところで、しばらくその辺の均衡が保たれたまま行っちゃうのかなと。交付金を超えて入ってくれば、関係ないのでしょけれども、そこがいつなのかというのは、私たちまだ見えていないので、ここで申し上げられないのですが、少なくとも7、8、9ぐらいまでは厳しいかなと。できるのが10年度ぐらいに税収が入ってくるというのは、直近の情報で聞いていますので、そこまではなかなか厳しいのかなというところです。

ただ、直ちに破綻するとか、そういうことはないです。現状、先ほど40億でしたっけ、全部で40億の事業費は、大体組めていくのかなとは思っております。

私のほうからは以上です。

○事務局 若い世代が定住したいまちのライフイベントのところで、就学、就職についてなのですが、御存じのとおり、白井市、就学で学校等は少ないというのと、就職先も結構都内ですとか、そういったものが多かったりという部分があります。こういう状況の中で、市外に就学や就職をしても白井に居続けてもらう、そういった部分の取組ですとか、また、一度就職で若い方、東京とかに住んでみたいとか、そういった方もいらっしゃるのですが、それ行った後、また子育てとかを考えたときに、白井市いい環境だったなというところで戻ってきてもらう。そういった需要を押さえて、戻ってきやすくする、そういった取組も重要と考えているところです。

○会長 ほかに御質問いかがでしょうか。

はい。

○委員 前回とか前々回の出た話を蒸し返して大変恐縮なのですが、今回、予算の内訳の中で、大体18%ぐらいが使えるというお話が出ていたのですが、だったら、なおさら本当は、もうちょっと強調する部分と、そうじゃない部分を本来ははっきりさせたほうが、その予算を有効に使えるんじゃないかなというふうに思うのですが、

ただ、何回かお話の中で、強弱はつけずに、いろいろな分野についてやっていくという話が出ていたと思うので、その出た話の中に、こう言うのはあれなのですが、

ただ、限られたものの中で、これから10年間、どこにお金を費やすとか、どこを強調

していくか、もしくは、その6つの目指すまちで関わっていくような、共通する事業内容とか施策をもうちょっと連携すれば、逆にもう少しそこまでお金をかけないで、うまくできるものもあるんじゃないかなというようなことは考えるのですが、いかがでしょうか。

すみません、こんな質問をしてしまって。

○事務局 私のほうからお答えさせていただきます。まず目指す6つのまちというのが、これまで積み上げてきたものから、目指すまちとして定めたものになります。そこからどうすればいいかということで、施策の柱であったりとか、施策ということで今示させていただいております。

確かにギュッとすれば、事業を減らせば、もっとお金かけられるんじゃないかということはあるかと思うのです。ただ、そこで先ほど委員からおっしゃっていただいたとおり、連携をすることによって、人手もお金も集約してかけていくとか、そういう取組を今後進めていく必要があると思っていますので、そういうところでうまくやっていきたいと。施策自体減らしてしまうと、逆に見えなくなってしまうものというんですか、出てくるのがあまり目指すところではないというのがありますので。見せた中で、いかにうまく協力しながら、いわゆる横串を刺しながら進めていくのかというのがとても大事なのかなと思っていますので、そういう進め方をしていきたいと考えています。

以上です。

○委員 ありがとうございます。

○委員 やっぱり人口を増やすことが、あらゆる総合計画の一丁目一番地になると思うのですけれども。先ほどの御説明だと、転入数の部分はちゃんとモニタリングされているのだったら、この成果指標の部分についても、生産年齢人口の減少という割合等々見られていますけれども、転入出が一つの生活指標のファクターとして、もっと具体的に書き込んでもいいんじゃないのかなというふうに感じましたのと。

結局、白井市の未来を見据えると、日本全体を覆う、この自然減を、白井市は転入出の転入超過でどう補うかということに尽きると思うのです。あとは、白井市でお子さんを産み育ててもらえるかということに尽きると思います。そういう意味では、ここに合計特殊出生率が入っているのは、理にかなっているのかなと思うのですけれども。

その一方で、白井市は空き家も少ないし、新築物件の着工も、県内でも結構少ないほうだって話を聞いて、そうなるって、重要なものって、住宅供給じゃないですけれども、でも、これって市の9%のさらに細分化された中で、市はどこまでやれることなのだろうなというふうな思いもあったり。その辺りは、どこまでその一丁目一番地の根幹的な問題に、この総合計画と予算配分において手が打てるものなのか。特に、この具体的な事業というのがまだここには書かれていないので、この限りにおいて、やれる事業ってどこまでやれるのかなということが、具体的に気になるところかなと思いました。

○事務局 ありがとうございます。まず指標の転入の超過なのですけれども、こちら施策

の柱としては、こういった生産年齢人口を試算で減少人口の割合としていますが、そのさらに下のレベルで施策がございまして、こちらについても、施策の指標というものを設けたいと思っております。

その中で、例えば若い世代に向けた住環境整備。こちらは新しい住宅を増やすということで、こちらで指標として転入の数ですとか、定住施策のほうで指標として、転出数を下げるといった目標値を考えているようなところではあります。

また、限られた予算の中で、こういった定住の住居の、どういうふうにというところがあると思うのですけれども。こちらは、まず駅前のニーズの把握ですとか、実際開発する場合は開発する事業者が行う部分でありますので、そちらとうまく連携して、まちづくりを共に進めていくというところで考えているところです。

○会長 ほかにいかがでしょうか。まだ御発言されていない方もいらっしゃるかと思うのですが、いかがでしょうか。

○委員 追加でよろしいですか。

○会長 はい。

○委員 1番の下、指数のところでは教えてほしいのが、線引きのない教育・保育の推進の、この線引きの意味がちょっと理解できなかつたので教えていただけますか。線引きのない教育・保育というところが。

○事務局 こちらにつきましては、ダイバーシティ的な考えです。そういった線引きで区別せずに誰でも受けられる教育・保育の推進といったところで。

また、線引きはないと表現させていただいたのが、こちら個別計画として保育の計画ですとかがございまして、そちらのほうでこういった表現を使いたいというところがございまして、そちらと調整した結果、線引きのない教育・保育の推進といった表現にさせていただいているようなところではあります。

○委員 線引きがあったと前提にしているように聞こえちゃうんですね。

○事務局 今のところなのですけれども、先ほど申し上げた担当課との調整というところの話なのですけれども。これはもともとインクルーシブってワードが入っていたのです。インクルーシブってワードが、本来であれば、誰でもというところが念頭に置かれているワードであるのに、インクルーシブが一人歩きをしてしまって、障害のある方であったり、そういったところの部分がフォーカスされ過ぎていて、誰でもっていうところがぼやけちゃっているよねというのが担当課から話がありまして。そうじゃなくて、誰でも線引きなくという形で、ワードが今こういう形に落ちているというところがありまして。

○委員 誰でもっていうと、これ残していただかないほうがいいのかもかもしれません。

例えば、医療的ケアのお子さんを保育園や幼稚園にというときに、いろいろ難しい場合もあつたりするတဲ့というようなことでよろしいですか。そうすると、インクルーシブ、もちろんそれが今、推進はされているけれども、それを線引きのないというふうに言葉を

ちょっと言い換えたということでもよろしいでしょうか。こういうことですよ。医療的ケア児などのお子さんも本当は入れてあげたいけれども、例えば保健師がいないとか、小学校で学校保健師がいないから、本当は一緒に勉強してほしいけれども、なかなか難しいみたいなような事情があったりするというようなことかなと思います。失礼しました。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

私、一つ伺いたいのは、産業についてなのですけども、白井市が想定している産業、一つは市内の地域内産業という部分と、もう一つは新たな産業を興していくという、その二つが一応射程には入っていると思うのですけれども。例えば、市内の産業ということだと、何をどこまで想定しているのかというのが、若干、重点施策としては見えづらいところがあって、工業団地のような既存資源というものを生かしていく。それをどう生かすのかというふうな辺りが、もう少したわねる必要があるのかなと思いますし。

例えば農業資源というものも、他の自治体の地域と同じような農業振興というのは多分なかなか難しいというのが実態だと思いますけれども。とするならば、それを6次化なりなんなりというふうな新たな方向を目指すとするならば、そこをもっと前面と押し出していくということが必要でしょうし。

それから、新たな産業といっても、どういう意味での新たな産業なのかと。例えばデータセンターなら企業誘致というのが一つあるでしょうけれども、それ以外に新たな産業を興していくというのは、どういうことなのか。多分この10年でやれることには、そんな大きな前進というのはなかなか難しいかもしれませんけれども。

例えば今、成田であれだけの産業集積というのが行われようとしているという中で、その成田の拠点性をどう生かしていくのかというのは、成田の周辺自治体は今かなり躍起になって、いろいろな動きをしつつあるという中で、白井というのは、成田周辺なのかどうかって辺りの認識と、それから、そういう成田の巨大な拠点性というものを仮に生かすとするならば、白井というのは、どういう立ち位置で何をどこまで、少なくとも長期的に想定しているのか。あるいは千葉北というようなものの関係を含めても、インターができるわけですよ。それがまたどういうふうなプラスの材料になっていくのか。

まだまだ、いつできるか分からないというふうなところもありますから、未確定の部分があるとは思いますが、少なくともそういう新たな産業を白井として興していくといった場合、そこら辺の中の見通しなり、あるいは検討の動きというのがあるのかとか、それをちょっと聞かせてください。

○事務局 ありがとうございます。御存じのとおり成田空港拡張というものがあまして、白井市のまず地理的な位置としましては、東京と成田空港の間にあると、道中にあるといったところがあります。その中で白井市、特産品として梨とかがあって。また、工業団地の話もありましたけれども、工業団地の中の会社のすごさみたいなものを白井市民が果たしてどこまで知っているのかといったところもありまして、まず魅力の向上というのは必

要なのかなと思います。

また、梨があるけれども、それを生かした6次産業とか、いまだに知られていないような産品、これ6次産業化できるんじゃないかというところは、先ほど申しあげました市内の業者が連携することで、また新たなものというのは生み出せるのかなと。

今、総合計画と同時に産業振興ビジョンというのを策定していますけれども、その中では、農業と商業、工業が連携することによって新たな観光資源を創出する、そういった部分をうたっておりまして。イメージとしては、常総市にあるアグリサイエンスバレーとか、そういった部分は、農業をうまく生かして人を集めればといったものを創出しているようなところでして、白井市としても、先ほど申しあげたとおり成田空港と東京都内の間にあるといった部分のインバウンドというのは、考えていけないといけないのかなというふうにイメージしているようなところとなります。

○会長 今後、施策を詰めていく中で、それはどういう絵を描いていけるのかというのは結構大事で、今後に期待したいところがあるのですけれども。ぜひその辺、少し具体性を持った方向性というものが問われるところかなと。

ほかにはよろしいでしょうか。

多分、次回は、事業等が絡んだ形でかなりボリュームも増えて、細かな議論も増えてくるかなというふうにも思いますので、今日この施策、特に施策の柱という大きな枠組みでの議論というのは、今日くらいかなというふうに思いますので。その大きな枠組みという部分で、もしお気づきの点がありましたら、残りの時間に、ぜひ御意見頂戴できればと思いますけれども、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員 今のお話もそうなのですが、これは個々でどうのという話ではなくて、まず白井の創生であるとか、これから人口を増やしていくとか、これって日本だけじゃなくて世界中の課題でもあるのです。その中で、どうやって白井らしさを出すか、これをずっと話し合われていることなのですが。

こうやってまとまったものを見ると、いろいろな課でそれぞれの連携あるなしというよりも、すごい漠然とした話なのですが、町としての哲学というのでしょうか、そういうものが恐らくしっかりしていないのでは。これって白井だけではないと思うのです。どこもが同じ、国として人口が減っていく、2030年ぐらいになったら、今の団塊の世代の方たちがどっと減っていくという人口動向というのは、どこも抱えていること。その中でどうやって産業を復興していくか、人口増につなげるか、どこも抱えていることの中で見えてこないのです、白井らしさというものが。

今おっしゃったように、私もずっとここにいるわけではないので、この白井の産業って何なのでしょう。千葉県は農業なので、白井らしさは何か。ほかの工業団地にしても、どういう方向で、どういう未来を見つめて工業団地というものが成り立っているのか、その

辺もよく分からないので、ちょっとぼやけているかなと思うのが印象なのです。すごいぼやとした話で申し訳ないのですが。

なので、この難しいことを白井という町がやっていく、どこの町もやっていることを、その中でも特色あることをやるということは、もっと哲学が必要かなというのは感じました。

○事務局 まず哲学というか、フィロソフィーみたいな部分なのですけども。

一応構想のほうで、方向性を示す中で、そもそもの基本理念というものがございます。それは、あまり変えるものがない白井のある意味哲学的な部分でして、前回の計画ですと、安心・健康・快適と、そういったものを第6次も引き継いでいると。そこはまず芯として触れてはいけない部分なのかなと。なので、新しい産業は栄えても、快適性、そういった部分が失われてはいけないと思いますし、気をつけてやっていかなきゃいけないと。

また、白井らしさなのですけども、既存の白井の良さというのはたくさんあるとは思いますが。そもそも梨はおいしいという誇りを持っている部分もありますし、ニュータウンの町並み、渋滞が少ないですとか、広々とした住環境みたいな部分もあると思います。

ただ一方で、変わらない良さもあれば、これから変えていく、作っていく良さという部分があると思いますので、そういった部分も意識して事業を考えていかなければいけないかなと思っているところです。

○会長 哲学の部分、私、専門が政治思想なので、そこは一番語りたい部分ではあるのですが、ここは計画を練っている場なので、そこは抑えておくとして。

ただ、今、御指摘いただいたことは非常によく分かるところであって、根本的な物事の考え方なのです。特にまちづくりの中の哲学というのは、全体像をどういうふうに描いていくのか。その全体像というのは、そこに住む人、そこに関わる人という、人と人との関係性という部分もあるし。それがもっと物的な基盤として、住宅の問題、土地の問題、それから産業の問題から、自然環境の問題というふうな物的な要素というものがあるし。

あとは、それらをかみ合わせながら解釈というのがあるのです。どんなふうにそこに魅力を見いだしていくのかというふうな、あるいは、どういう方向性で捉えていくのかって。その全体を結びつけながら、どういう絵を描くのかというのが、哲学的な部分で非常に大事な問いで。ここがまだまだ練り込まれていないというのは、私は御指摘のとおりだと思っています。

ただ、これ、なかなかバーンと描くのが難しいところもあるので、一つは、こういう施策とか事業も含めた運用の中で、どういう形を作っていくのか。例えば、この10年の中で、この施策を回していく。その中で、本当にこの白井に住むというのは、どういう魅力なのかという、この白井という場所が持っている可能性というのは、どういうものなのかということをあぶり出していく。

だから私は、そういうものは評価と一緒に連動させて、評価しながら、もっとここ、こ

ういうことをしようよというふうな計画、運用、それから評価、そこを循環させながら、うまく作り上げていくしかないかなというふうにも思っていますので、今後の運用の中で、そこら辺は意識的に深掘りをしていくべきかなというふうに思っていますので、非常に大事な御指摘だと思います。

つまり、そこがないというか、ぼやけちゃっている町がほとんどなのです。だから自然環境を守らなきゃいけない、若い世代にもっと力入れて大事にしなければいけないって、どこも言っているのです。どこも言っていることをただなぞるような形で描いていたのでは足りない。そこをどうしていきたいのかって、もっと一歩踏み込んだ考えの深掘りと運用というのは、そこが問われているということは確認しておきたいと思います。

一応、予定あと10分ぐらいではあるのですが、ほかに御意見、御質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

今日の骨子とかにとらわれなくても、ちょっと私ここ気になっているんだということがあれば、全然今日のとこと関係なく御発言いただいて構いませんけれども、大丈夫でしょうか。今後、より具体的な計画づくりが出されていくわけですが。

よろしいでしょうか。

それでは、今日の議題の一つ目は以上とさせていただきます、最後の議題、その他ということで、事務局のほうからお願いします。

○事務局 それでは、その他としまして、事務局からは今後、来年度になってしまいますけれども、会期開催の予定ということで、本日テーブルにお配りしましたお知らせというものの下に置いてあります令和7年度白井市総合計画審議会年間開催日程というものがあったと思いますが、どうですか、大丈夫ですか。

こちら来年度、ひとまず3回予定をしております。この3回というのが、前回から話し合っておりまして、前期基本計画、こちらの作成までの日程ということになっております。

1回目が5月の30日、2回目が8月の12日、それから3回目が10月28日と一応予定しております。もし、この予定から変更がある場合は、早めに連絡させていただきますが、一応この日程ということで御理解いただければと思います。

以上でその他の説明は終わります。

○会長 来年度の日程予定について、今、説明いただきましたので、御確認をお願いできればと思っています。

予定していた議題は以上となりますが、委員の皆さんのほうから、何か今後に向けて御発言ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして令和6年度第5回の白井市総合計画審議会を閉会させていただきます。どうもお疲れさまでした。